



高津川流域治水プロジェクトの取り組み

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

国土交通省(河床掘削)

現在、高津川下流（高角橋～高津大橋）にて河川の断面積を増やすための掘削工事を行っています。昨年12月より本格的な掘削を開始しました。この区間を掘削することで大雨時の水位低減効果が見込まれています。



掘削状況 高津大橋より撮影R4.12月

ちさん すじこう

島根県(治山ダム・筋工の取り組み)

○治山ダム・筋工とは？

治山ダムは、山林の中を水が集まり流れる渓流の勾配を緩やかにし、大雨が降った際、水の勢いによって渓流の浸食や土砂・流木などの流下を抑止・抑制しようとするための施設です。

筋工は、地表水が発生した場合の流速低減や土壌保持による保水力・浸透力の向上を図るための構造です。

「治山ダム」の実施状況(津和野町名賀地内)



POINT①

スリット(隙間)を設置し流木等の流下を抑制させ保全対象への被害を軽減させます。



「筋工」の実施状況(益田市匹見町地内)



POINT②

土砂をゆっくり堆積させ渓流勾配を緩やかにし、土石流の流下を軽減させます。



POINT③

森林整備と組み合わせることで現場で発生した間伐材を用いて、筋工を設置しています。

被害の低減、早期復旧・復興のための対策

国土交通省(出前講座)

11月22日(火)に西益田小学校にて防災学習の出前講座を行わせて頂きました。

授業では、過去の高津川で発生した災害や堤防の重要性、水害が起きた時どのような危険があるかなどを説明しました。

また校庭に降雨体験機を設置し生徒の皆さんに近年多発している豪雨の体験をしてもらいました。体験した生徒からは、「雨の音で声が聞こえない!」や「怖かった!」との声が聞こえました。

今回の体験を今後の防災に繋げて頂けたら嬉しいです。

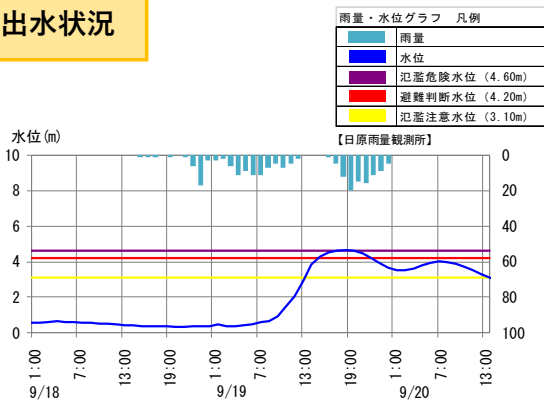


今年の出水について

今年、大きな出水が7月と9月と2回ほどありました。9月では、高角水位観測所で氾濫危険水位を超える出水にはなりましたが、大きな被害は特になく無事出水期を終えることが出来ました。

河川整備の効果としては、河床掘削の実施により高角地点では7月の出水では約20cm、9月の出水では約22cmの水位低減効果がみられました。

出水状況



令和4年9月19日 14:26分の状況



令和4年出水 流量：高角地点約2,400m³/s

7月出水時



堤防にあるこれ。何か知っていますか？

堤防沿いを歩かれている方は見たことがあるかもしれないこの看板。皆さん、備蓄土砂（第二種側帯）という言葉ご存じでしょうか？備蓄土砂は、堤防の裏側（民家側）に災害等の非常時に使用できるよう積み上げた土砂のことで高津川にも何箇所か設置しています。いざ土が必要になった時、この備蓄土砂を利用したりしますが、掘りすぎて堤防の機能が下がらないようあらかじめ堤防との境目に保護工がされています。

堤防沿いを歩く際は、このような看板などを探しながら歩くのもいかがでしょうか？



問い合わせ先：〒698-0041 益田市高津1丁目6-1

国土交通省 浜田河川国道事務所 高津川出張所 (TEL: 0856-22-0533)

※ 当該号、バックナンバーはこちらから

(<http://www.cgr.mlit.go.jp/hamada/kasen/takatugawadayori/index.html>)